

『人を育てる雰囲気とは』

学校は人を育てる雰囲気につつまれているだろうか？

こんなことを言うと経験豊かな校長先生、教頭先生を相手に随分疑い深いと思われるかもしれない。

「学校は子どもたちを育てる場である。」

あなたに言われるまでもない、と反論されても結構だ。であるがである。職員にこのことが周知徹底されているであろうかなれば話は違ってくるであろう。

このことは地域の人や来客に聞けばわかること。外部の人間が見るとはなしに目を向ける場所・場面をいくつかひろってみる。

- ・校門から玄関までの清掃が行き届いている
- ・玄関や廊下の清掃が行き届いている
- ・玄関前の花壇・菜園の手入れがなされている
- ・受け継ぎや廊下での教職員の明るい対応、児童生徒の明るい挨拶がある
- ・掲示物の効果的な展示がなされている
- ・校長室への教職員、生徒の入退室がなされている
- ・トイレの清掃と案内が行き届いている
- ・来客の出迎え、見送りが行き届いている などなど

こんな当たり前ができて学校こそ「学校は子どもたちを育てる場である。」と言い切れるであろう。

「学校の玄関に入っただけで、子どもさんが大切にされている学校かどうかわかる」

教頭時代、小さな小学校にいた頃出会った、青森からりんごを売りに来た行商のおばさんが言った言葉を思い出す。

学校の外からは学校の中がよく見えるのである。それも、多くの学校を出入りしている人たちにとって、玄関先だけでも多くを感じることができるのであろう。

私が着任前に引継ぎで訪れた A 中学校は玄関が物置状態。部活の道具が積み上げられている玄関の状態をみて、着任して何から指導するかを考えさせられた。こんな玄関のままで子どもを育てられる訳がなかったからだ。

私が初めて中学校を経験させてもらったのは教頭になってからである。小学校経験が長い私にとって、この中学校は信じられない光景がいくつもあった。先生方の口癖は「忙しい」。忙しいから整理整頓は後回し。あちらこちらがもの置き場と化していた。先生方のロッカールームは見るに耐

えない状態。用務員さんと二人で片付けた。

ある日のこと、美術担当の女の先生が泣いて校長室に入ってきた。尋ねると授業中生徒に注意をしたら「人に注意できるか？先生の準備室はひどい状態じゃないですか」と言われたという。他の生徒も同調したため授業ができなくなってしまったのだ。

この先生は私の指示で教室に戻り、生徒にしっかりと謝罪し、その日のうちに、直ちに教材室整理整頓し事なきを得た。

生徒は黙って見ているのである。変わらなければならないのは教職員の方なのだ。二つの中学校は、先生方の意識が変わるとともに、生徒たちが落ち着いていったのは言うまでもない。

学校の雰囲気づくりは校長の仕事であり、その校長の人間性や経営姿勢が出るものと言われる。私たちは大学を出てすぐ「先生」と呼ばれて、児童生徒や・地域の人から尊敬され、信頼を得てきた。そのため、社会的なことは勉強不足、大海を知らずと言えないだろうか。

地域に開かれた学校を目指し、地域の人材を活用するなど、学校は今後ますます来客が増えることであろう。あの校長や教頭は何様だと地域や保護者に後ろ指を差されることのないよう、まずは管理職が社会的なマナーをいろいろな機会を通して学習することだ。それをなくして、学校が子ども達を育てる場とは成り得ない。